



修了生からのお便り

上教大での学びをもとに実践研究を継続

大学院を修了して2年が経ちました。沖縄から派遣されて研究を深めた美しい上越での2年間は、教育のあり方やこれからの教師としてのありようを見つめ直す機会になりました。今回は、修了後、私が学校現場に戻ってから行った実践をご紹介します。

人口7000人の北大東島で



修了後赴任した北大東中学校は、生徒がとても素直な反面、固定化した人間関係や学習意欲の不足など、離島僻地特有の課題を抱えています。

コラボレーションによる作文が人間関係の変化も促すという研究成果をもとに、北大東島でも、2年間の意見文の作成を



北大東島中の全校生徒

通して、学習者の人間関係を再構築し、書く力を向上させる実践をしてきました。1年目には、ゼミの松本先生をお招きし、共同研究授業を行いました。また、詩や小説教材を用いた読みの交流、小中連携したブックトークの発表など、さまざまな実践に挑戦してきました。(ちなみに、島では山羊刺し、シヤコ貝などの珍味をいただく機会も)



北大東島のお祭り

学会活動の継続

松本先生との共同研究授業は、昨年5月の全国大学国語教育学会で発表し、論文化しました。また、2年間の意見文の実践は、今年5月の同じ学会で発表しました。学会活動は、自分の授業を他者の視点でモニタリングする場として、大きな意義があることだと考えています。学習者が「分かる」授業を目指して研究を続けていきたいと考えています。

中高一貫校に

4月から私は、世界遺産の勝連城趾のそばにある、沖縄県では初となる中高併設型の一貫校に勤務しています。海を望む学校で、素直で楽しい生徒達と、一貫校ならではの可能性を追求したいと思えます。また、作文教育のみならず、読みの交流から自己と他者を見つめ直し、それを書く力にもつなげていければと考えています。



緑が丘中の担任クラス

上教大で学ぶ皆さんへ

上越教育大学の良さは、何となく、現職教員とストレートマスターが同じゼミで各自の課題に基づきながら研究を深めていくところではないでしょうか。現場で培った知識・実践に基づいた課題と、ストレートマスターの純粹な視点から発見される課題は、大学院でなければ出会うことにはないと思います。仲間とのつながりを大切に、修了後も自己の実践を振り返りつつ、研究を続けてほしいと思います。皆さんの力を学校教育の場で大いに生かして下さい。